



県内主要産業の動向

2018年4・5月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	18年3月	18年4月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は依然として低調。飲食店からの受注が停滞していること等から業務用が不振。個人向けも盛り上がり欠ける。国内市場は縮小傾向にあるが、職人不足等から海外での新たな販路開拓には慎重な企業も多い。原材料費等が上昇している中、一部で製品への価格転嫁が進んでいる模様。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は低調に推移。業務用は食品工場向けの調理器具などに需要がみられるが、全体では動きは鈍い。一方、包丁や鍋など一部の輸出向けは好調な模様。そうした中、中国の消費者向けにECサイトを活用して商品を販売する動きもみられ、新たな市場開拓として期待がかかる。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春の需要期で生産、販売共に例年通り増加。建築関連工具、各製造工場でのトルクレンチ需要などは堅調な動き。輸出は、業者ごとに差はあるが、総じて東南アジア向けを中心に復調。鋼材については価格上昇の他、総体的にやや不足気味で適正量確保が課題の業者も。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は総じて好調。半導体関連では、半導体素材の受注が堅調。電子部品関連では、半導体製造装置向けは好調を維持しているが、スマホの販売不振を背景に携帯端末向けは弱含みの動きが出ている。先行きは、ハイテク製品に係る米中摩擦の動きもあり、慎重にみる向きが多い。
鋳物	○	○	→	受注は総じて高水準を維持。自動車関連、産業用機械関連は堅調な国内外の投資需要を背景に活況を呈している。一方、半導体関連はスマホ需要の鈍化を受けてやや一服感。足下では、人手不足が長期化し納期対応に苦慮。労務費、外注費アップで収益圧迫要因に。
金型	○	○	→	受注は、自動車や建築金具向けを中心に底堅く推移。中でも自動車関連は電動化や電装化が追い風となり、需要全体に占める受注割合が上昇傾向にある。足下では、引き続き人手不足が課題となっており、外注委託しても納期の面で苦慮する場面がみられる。
一般機械	○	○	↗	内需・外需とも自動車、半導体関連、航空機など幅広い分野で設備投資が活発、好調を維持。国内・中国・欧米向けのいずれも、盛況の傾向が続く。工作機械は前年同月比での受注増加が続いており、米中摩擦の影響を懸念する声もあるが、足下ではその兆候なく好調が続く。



業種	景況			コメント
	18年3月	18年4月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町、五泉産地とも受注量は総じて低調。原材料の生糸や重油の価格が上昇する中、一部を除き製品への価格転嫁が進まず、収益圧迫の要因となっている。足下では、十日町産地で5月に開催された展示会が好調で、展示会での売上は前年比増加。その他のイベントも盛況で、産地のPRに繋がった模様。
合織織物	●	●	→	秋物生産期。アパレル側の慎重スタンスから受注は伸び悩み、一部では端境期入りの企業も。物流費、染料等の生産コストの上昇も相俟って産地では収益面で厳しい状況が続く。そうした中、栃尾産地では首都圏での展示会でインテリア品を初めて展示し、企画力・技術力をPRした。
ニット	●	●	→	秋冬物生産期。一部では「カットソー」など春夏物の追加受注が入り、秋物の仕掛け遅延がみられた。アパレルは在庫抑制のため、季節商品を都度発注する割合を高めており、産地では小ロット・短納期のオーダーに苦慮している。そうした中、各産地は国産ブランドの品質PRを継続し、需要喚起に注力している。
木工家具	●	●	→	業務用は、飲食店関連受注を中心とした繁忙も一段落し、一部に動きがみられた夏場商戦向け受注にも一服感。資材価格の急な上昇が採算面の懸念材料に。家庭用は、売上確保に依然苦慮。組合は例年開催のイベントのリニューアル、商工団体は地元ブランドの展示販売により販売促進を図る。
清酒	●	●	→	4月の出荷量は前年並みであったが、県内向けがやや不振。酒類別では、純米酒、本醸造酒が伸び悩み。販路別では、飲食店向けで弱い動きが続いている。清酒需要が伸び悩む中、長岡地区では長岡開府400年を記念した清酒の発売により、消費者向けPRに努める動きがみられた。
米菓	◐	◐	→	4月の売上は前年並みを確保。ポテトチップス需要の反動減はあったものの、定番品や新商品が堅調だった。5月は行楽シーズンが盛り上がり、総じて前年を下回って推移。そうした中、各メーカーとも限定商品発売やスポーツ連盟への協賛などにより自社ブランドPRに努める。
建設	◐	◐	→	公共工事は、前年度補正予算や今年度当初予算分の執行を受けて増加に転じている。機関別では、県の農地部や交通政策局で増加。民間工事は、大型工事は少ないが、運輸業の倉庫などに動きがみられる。住宅建設は、これまで弱含んでいた持家が、足下で回復の動きをみせている。
大型小売店	◐	◐	→	4月の売上は総じて前年を上回った。青果価格の下落が売上を下押ししたものの、気温上昇により衣料品が堅調だった。ゴールデンウィークや母の日は盛り上がり、足下でも客足が伸び悩み。一部に、食品などの値上げ報道を受けて消費者の節約志向が強まることを懸念する声も。